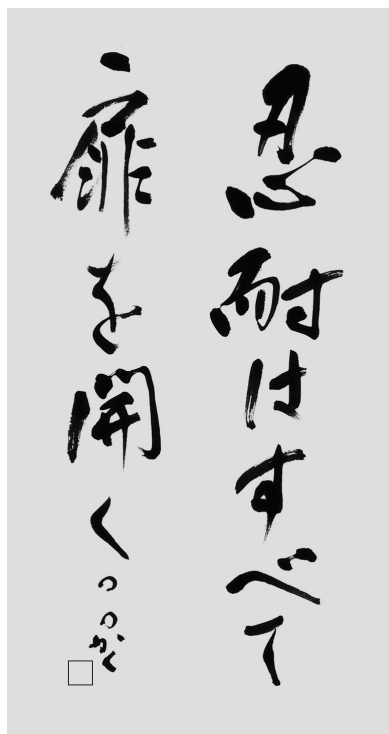


二科・三科参考手本

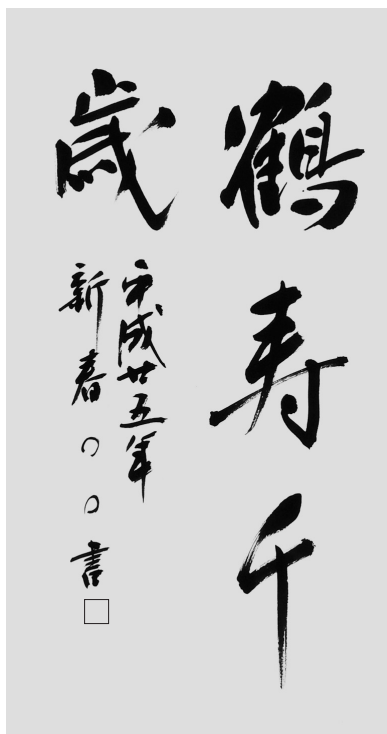
▶昨年より二科・三科は、出品しやすい半切2分の1サイズになりました。課題は自由ですが、下掲の参考手本によりご出品いただくこともできます。

忍耐はすべて扉を開く



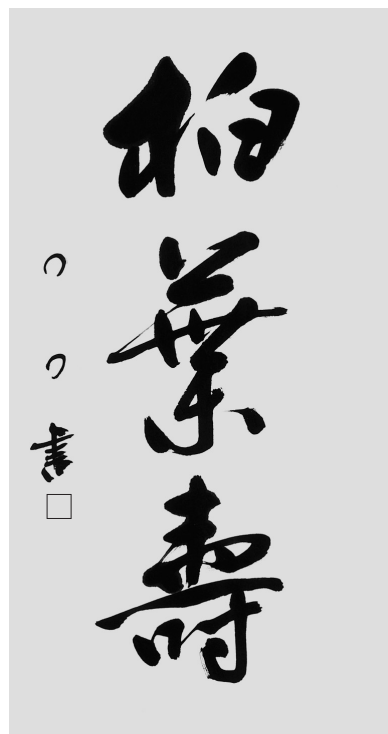
萩田 蒼仙 書

鶴^{かく}
寿^{じゅ}
千^{せん}
歳^{さい}



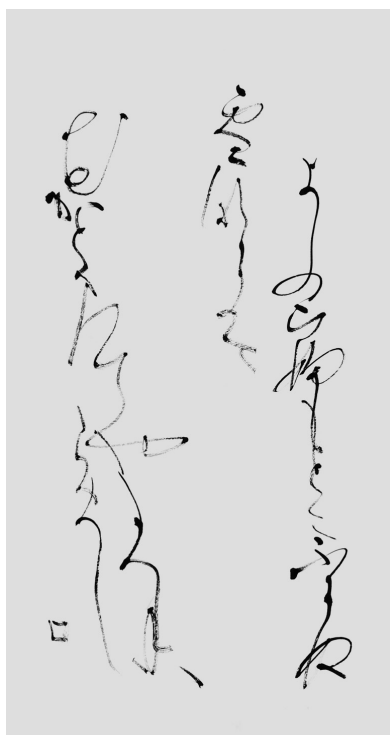
萩田 蒼仙 書

柏^{はく}
葉^{よう}
壽^{じゅ}



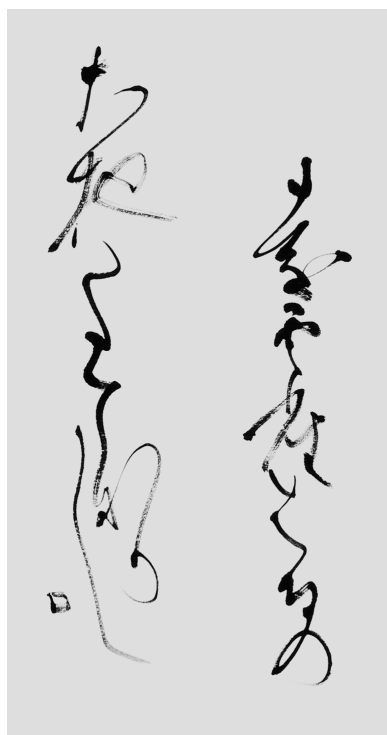
萩田 蒼仙 書

よしの山麓^{ふもと}にふらぬ雪^{ゆき}ならば花^{はな}かと見てや尋ね^{たずね}入^いらまし



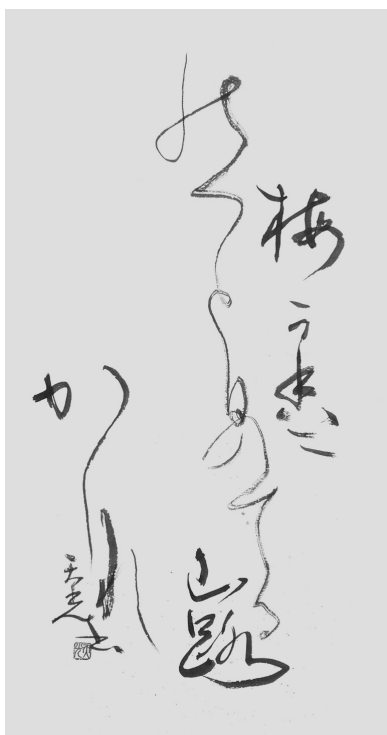
築瀬 舟香 書

遠雲^{とんぐも}雀^{すずめ}春^{はる}の大地^{だいち}は縦長^{たてなが}し (草田男)



築瀬 舟香 書

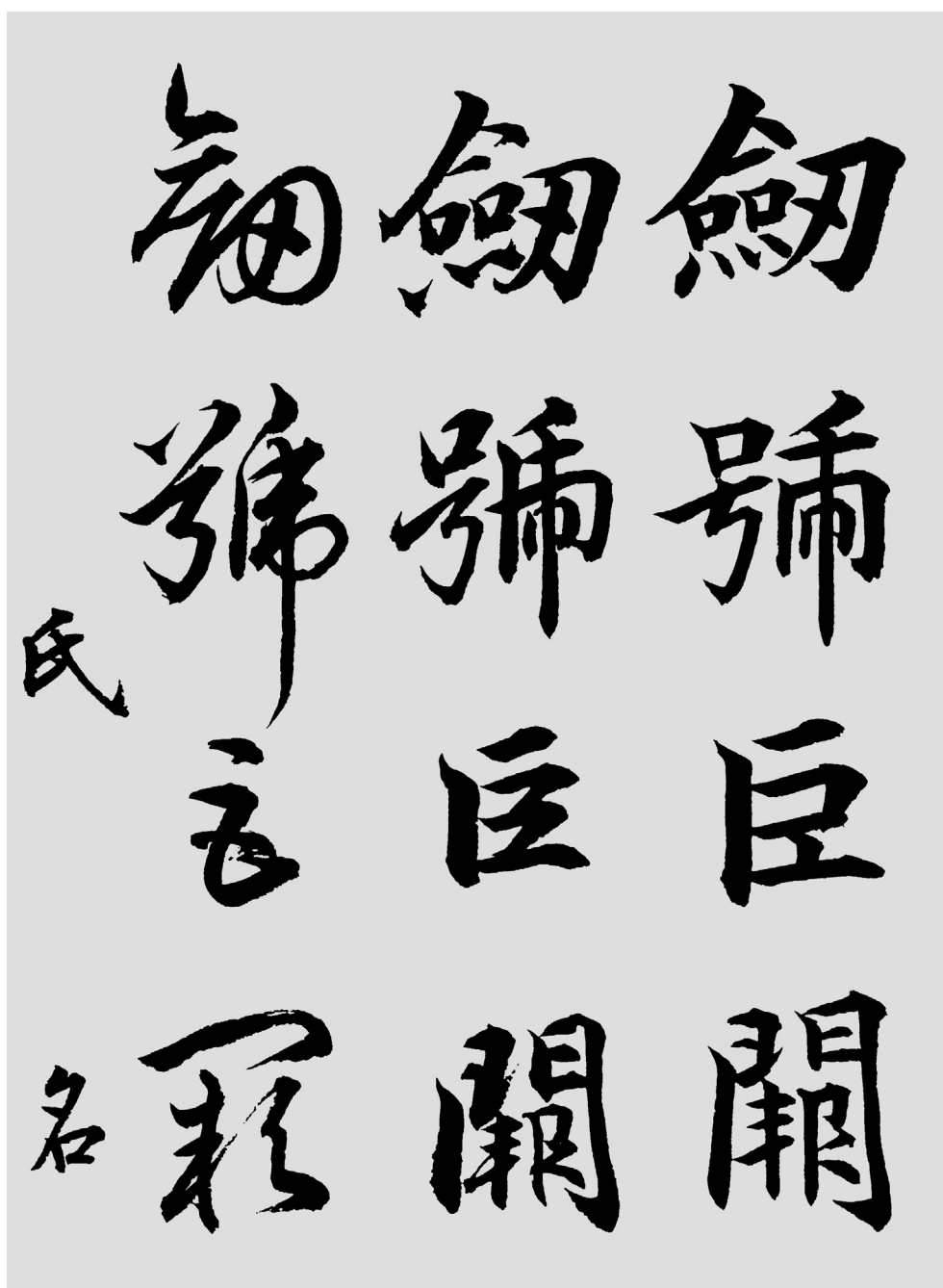
梅^{うめ}か香^かにのつと日^ひの出^でる山路^{さんろ}かな



飯 沼 天 光 書

三体千字文を書く(13)

締切り 一月二十五日(必着)



奥村憲照先生書

□作品の出し方

- ▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八二)年四月のことです。

◆「三体千字文」の一課題からスタートしましたが、憲照先生の穩健中正で気品のある毛筆手本が好評を博し、「硬毛一致」の新しいスローガンを打ち立てて毛筆部の充実を図り、本会の発展へとつながりました。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初學者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

劍 號 巨 關
珠 稱 夜 光

劍は巨關と称して宝とされた。珠としては夜光珠が名高く、

準初段から六段まで

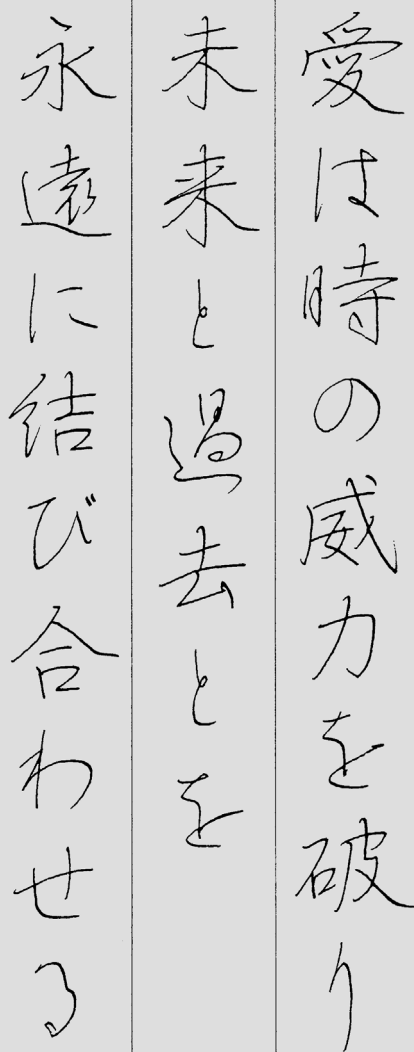
新入から1級まで

〔解説〕



◎書の上達のカギは「習うより慣れろ」。稽古日だからペンを手にするのはおぼつかない。ペンを持つ時間をいかに多くもつかが大切。書けば書くほどリズムがわかり、書くのが楽しくなれば上達は早い。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

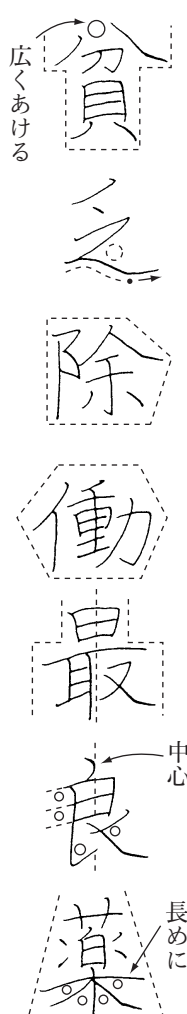


おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

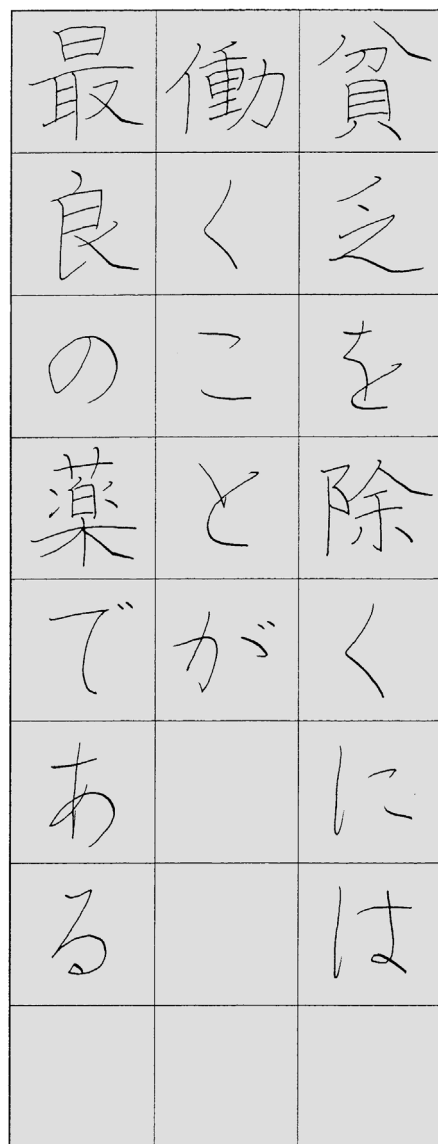
〔解説〕



広くあける

中心

長めに



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

▼教範・書範＝楷書
▼師範＝行書

宮本武蔵

◆2月課題予告（行草または草書）
千日の稽古を鍛えとし
万日の稽古を練とす

『愛』、それは時間を超えて、常にながっているものなのでしょう。
愛は永遠なるものなのです。

民衆的心情のこもったロマンチックな詩を多く発表し、愛の力を信じている一人です。

★愛は…（書体＝行書）
ミュラー（五西ノハモ）
ドイツの抒情詩人

◆2月課題予告（行書）
将来を思い煩うな
現在を為すべき
ことを為せ

★貧乏を…（書体＝楷書）
ヘンリー・フォード（八三ノ一四七）
アメリカの実業家
アメリカの自動車王として有名なフォードは、金持ちだけでなく、誰にでも手の届くような安価な自動車の生産方式を導入。フォードシステムと呼ばれる高度の経営合理化と流れ作業による大量生産等により、大幅な値下げを可能にしました。

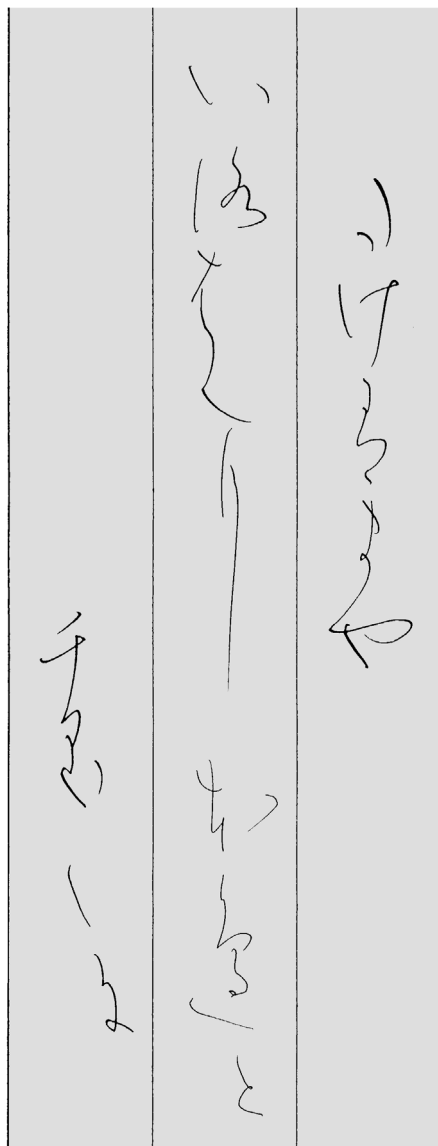
一般部かな課題

締切り 1月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

多け百ま
竹馬やいろはにほへとちりぢりに



たけうま
竹馬やいろはにほへとちりぢりに

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙



おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

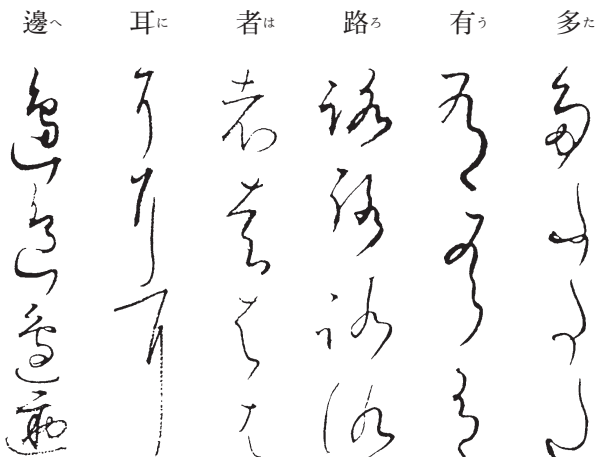
▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

◆2月課題予告

ゆきち
雪散るや千曲の川音立ち来り

（白田亜浪）



〔古筆参考〕

たけうま
竹馬やいろはにほへとちりぢりに

〔句意〕竹馬に乗って今まで一緒に遊んでいた仲間の友だちは、日暮れどきになって、一人去り二人去りして、いつしかちりぢりになってしまったことである。

（久保田万太郎）

締切り 1月25日(必着)

飛騨古川に三百年以上も続く「三寺
まいり」に行ってきました。雪深い
山里の瀬戸川沿いに千本ろうそくの
炎が揺らめき、とても幻想的でした。
縁結びが叶うとのことで、自分と
あなたの分もお願いしてきました。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

飛騨古川に三百年以上も続く「三寺
まいり」に行ってきました。雪深い
山里の瀬戸川沿いに千本ろうそくの
炎が揺らめき、とても幻想的でした。
縁結びが叶うとのことで、自分と
あなたの分もお願いしてきました。

横 書 き 課 題

おか しま けい せん 書
岡 嶋 桂 川

紙が発明される以前、人は竹片に
文字を記した。これを竹簡という。

富山県魚津市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 1月25日（必着）

黃 奉 上 玄 肅 恭

玄 肅 恭 黃 奉 上

〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）

〔読み〕つつし 黄んで じょうげん 上玄を たてまつ 奉り、つつし 肅んで せいびょう（清廟）を うやま 恭う。

準初段から師範まで

奥村暢之臨

雲 開 萬 壑 春

〔読み〕雲は開く ばんがく 万壑の春

〔大意〕雨雲は晴れ渡ってすべての谷の春を成す。

新入から1級まで（楷書）

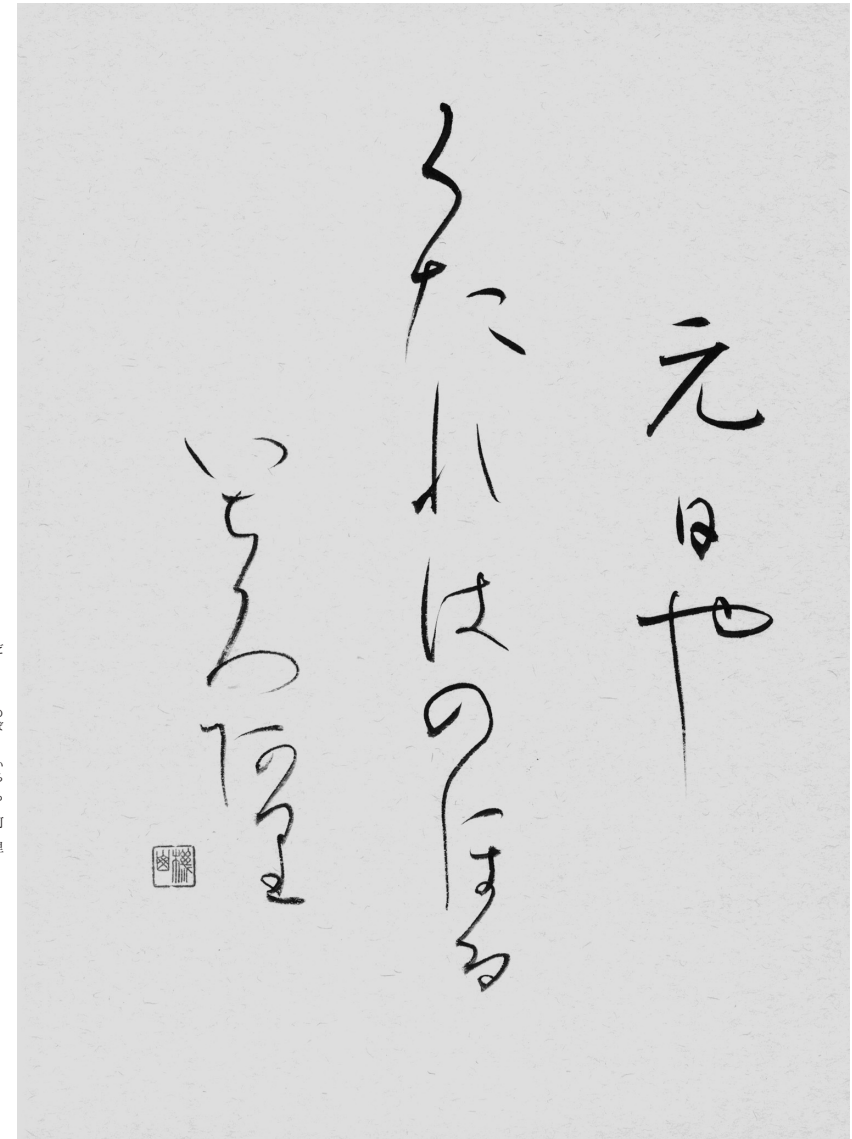
澤 静雨書

一般部毛筆かな課題

締切り 1月25日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書

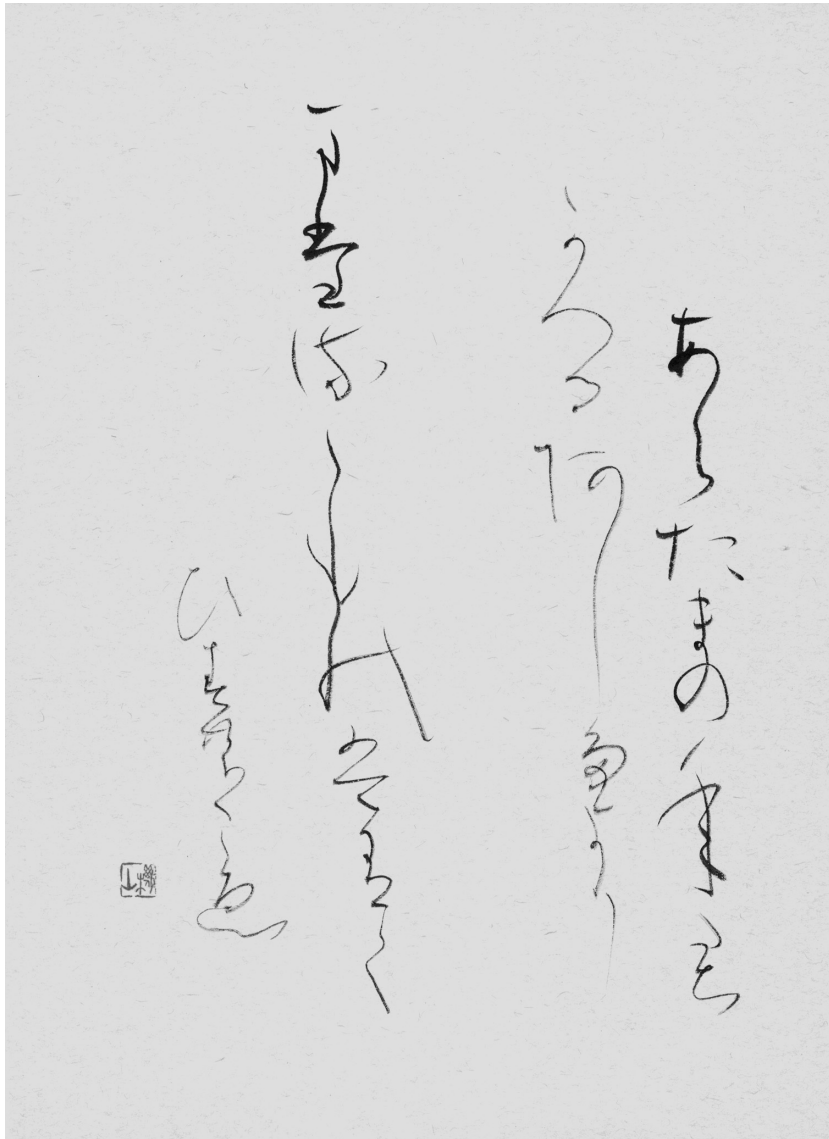


〔出典〕 貞弘 衛

〔句意〕 山道が下ったかと思うとまた上がっている。いかにも人生の起伏に似ていることだ、という実感がこめられている句。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

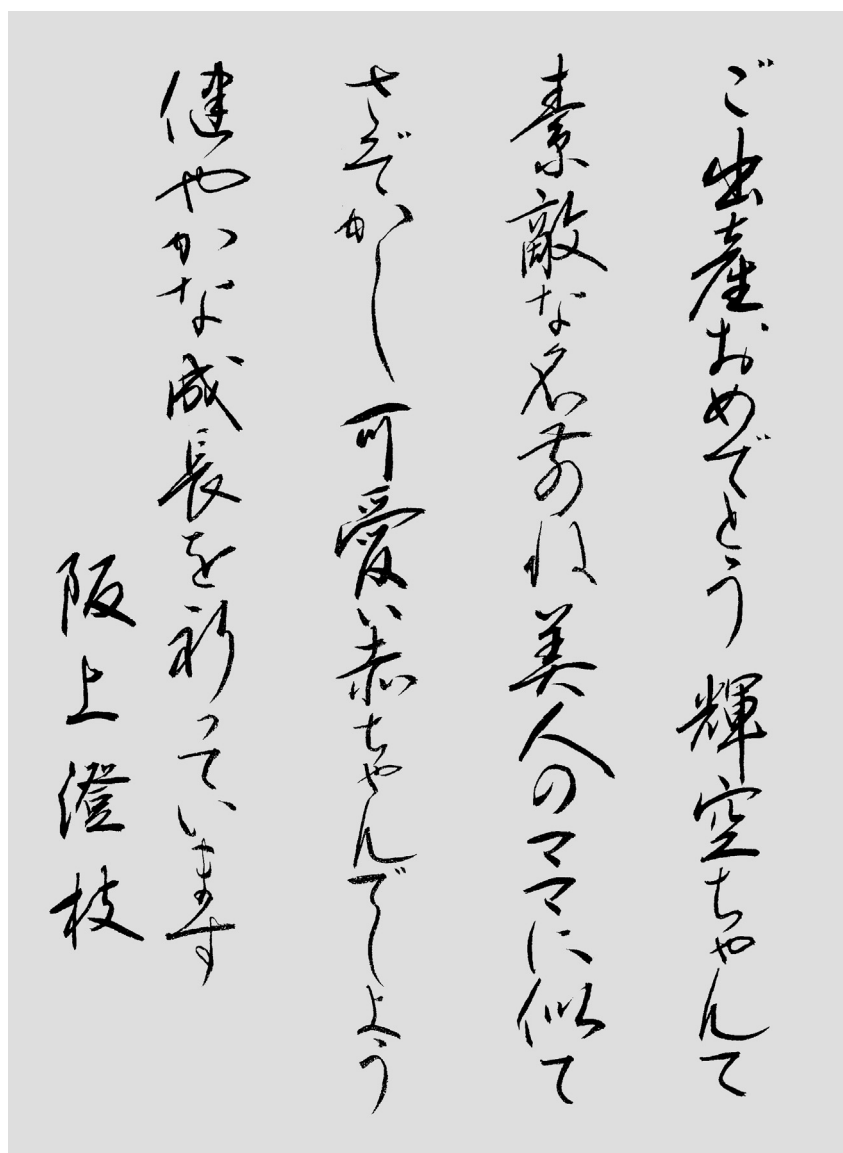


〔出典〕 素 性

〔歌意〕 年があらたまる明日から、聞きたいと待たれるものは鶯の声である。

あらたまるの年たちかへるあしたより
万堂流、能盤有くひ春農こゑ
またるものは鶯の声

一般部毛筆細字課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 華 玲 田 樋

一般部毛筆条幅課題



締切り 一月二十五日(必着)

半切 (一三六cm × 三五cm)

萩 田 蒼 仙 書

春シュン雲ウン五ゴ色シキ開キラ
 癸巳正月吉日
 「大意」春の雲は美しく五色とりどりに開きそめた。
 初出品の方へ
 支部名・会員番号・
 姓名・毛筆漢字成績
 を、作品左下に必ず
 お書き下さい。

〔条幅解説〕

それぞれ異質の五文字を調和よく纏めること。考え方としては、不完全な五文字が互いに補い合って統一された一幅に仕上げるのが狙いです。スランプの方があるとすれば、何の疑問をもたないでいた筆の持ち方と使い方を今一度考えてみましょう。それは、師か地区講習会等で書きぶりを見て学んでください。

・ご出産おめでとう 輝空ちゃんて
 素敵な名前ね美人のママに似て
 さぞかし可愛赤ちゃんでしょう
 健やかな成長を祈っています

(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

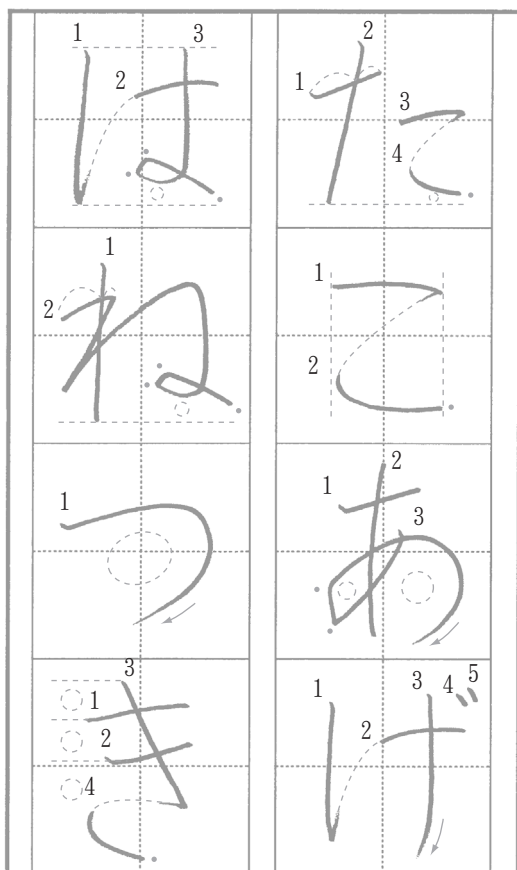
〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新人から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績(天位〜5等)は、評価により毎月変わります。

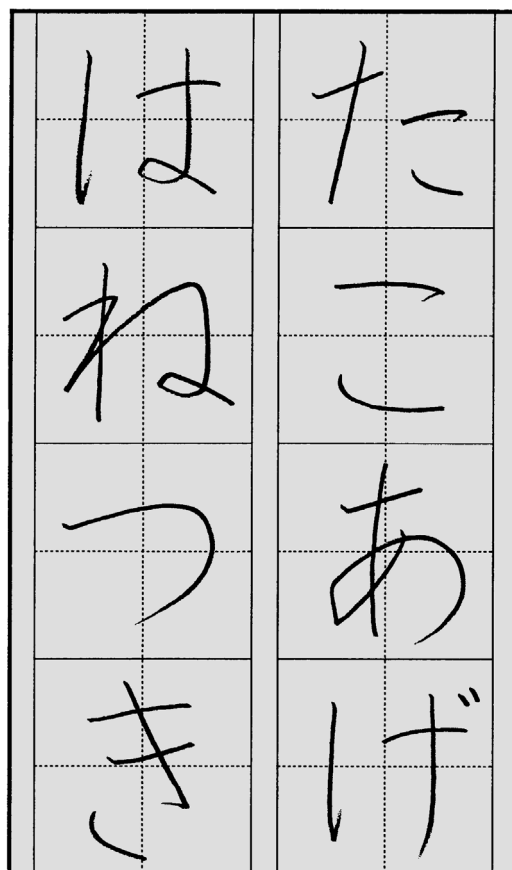
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



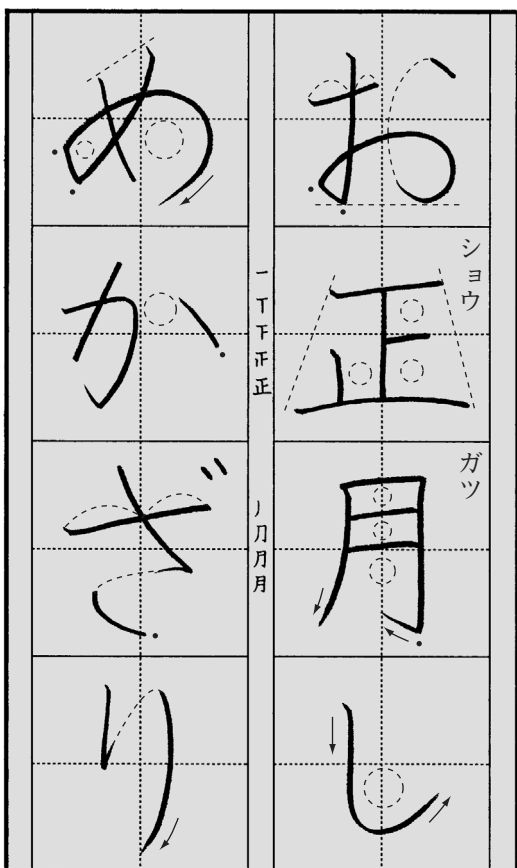
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年～小三年 三宅容玉書



新入～1級

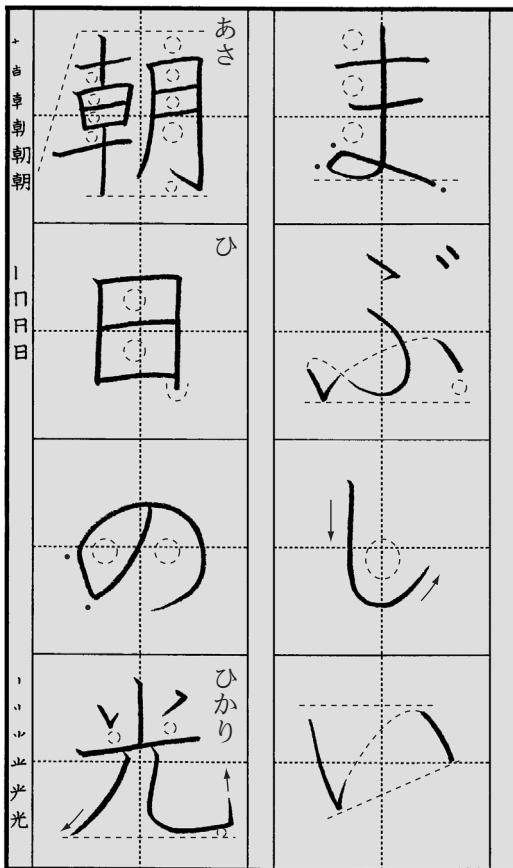
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



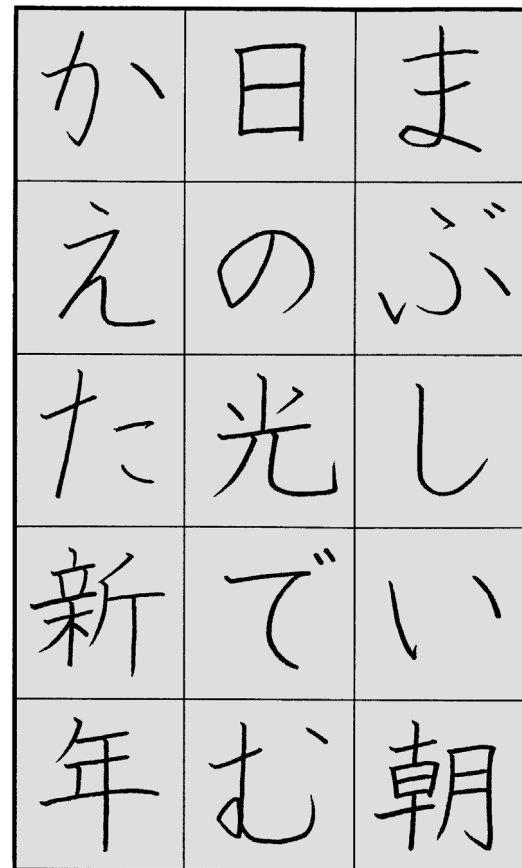
小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

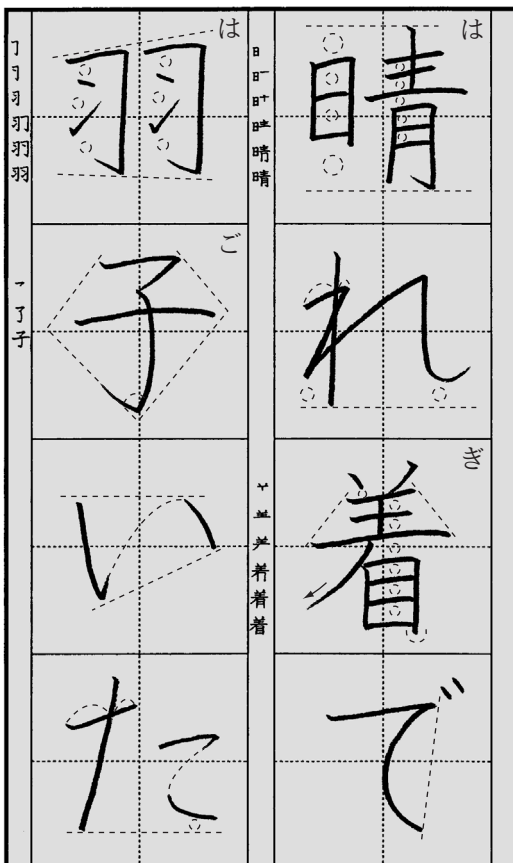


新入1級



小二年

準初段以上



新入1級

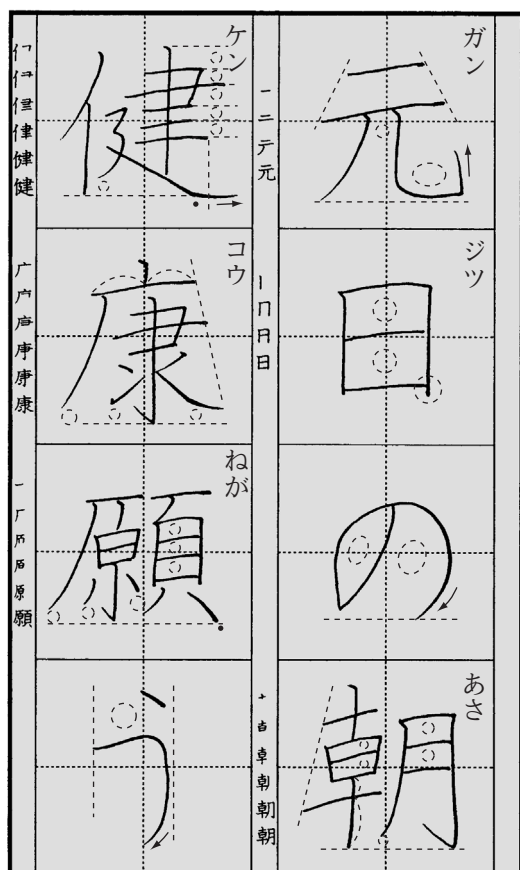


小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

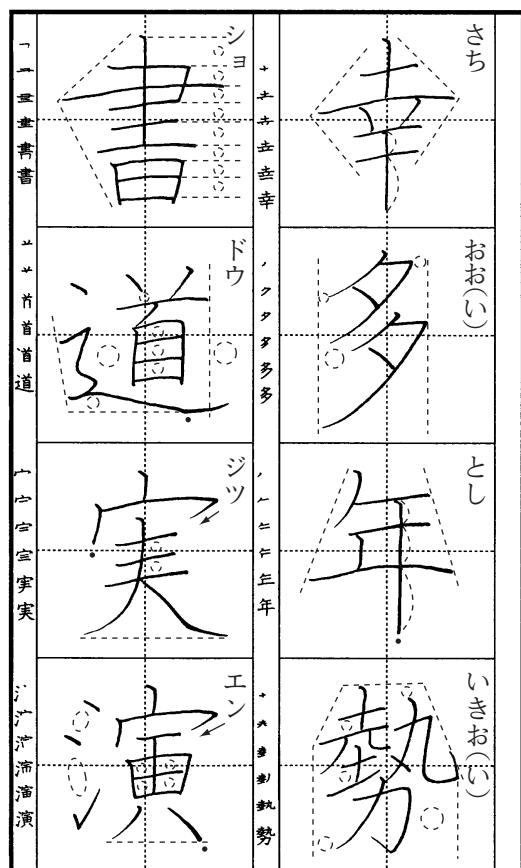
〈用具〉自由(黒色に限る)



新入1級

小四年

準初段以上



解説(よく見て習いましょう)

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小四以上 須田一葉書

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

語	将
姿	来
感	夢
激	熱

解説(よく見て習いましょう)

の	熱	将
次	く	来
に	語	の
感	る	夢
激	友	を

小六年

(全員)

精	な	逆
神	い	境
を	不	に
養	屈	負
う	の	け

中二・三年 (行書)

新	希	大
年	望	き
迎	を	な
え	持	夢
る	ち	と

中一年 (楷書)

▼小三年以下の課題 か 加 とう 藤 こう 紅 すい 水 書

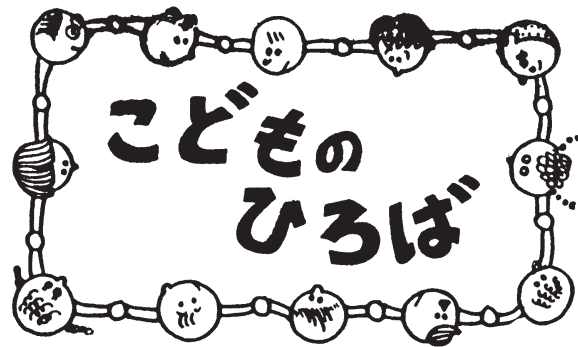
大 ^{だい}	田 ^た	く	黒 ^{くろ}	お
す	作 ^{つく}	り	豆 ^{まめ}	せ
き	り	き	こ	ち
で	も	ん	ん	は
す		と	ぶ	
		ん		



◎お手本はえんぴつ使用

- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
 - 一、成績は評価により毎月変わります。
 - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

◎お手本はつけペン使用



しめきり 1月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 しも 下 じょう 條 しゅん 春 そう 桑 書

感 ^{かん}	初 ^{はつ}	雲 ^{くも}	富 ^ふ	父 ^{ちち}
動 ^{どう}	日 ^ひ	の	士 ^じ	と
し	の	上 ^{うへ}	山 ^{さん}	日 ^に
た	出 ^で	で	に	本 ^{ほん}
よ	に	輝 ^{かがや}	登 ^{のぼ}	一 ^{いち}
		く	り	の



小 二 年

小 一 年

よ う 年



たま き しょう か
玉 樹 小 華 書



たま き しょう か
玉 樹 小 華 書



たま き しょう か
玉 樹 小 華 書

注：コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆ 1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1
(68cm×17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

小 五 年

小 四 年

小 三 年

小五 幸多き年

みず の こう ちく
水 野 香 竹 書

小四 元日の朝

みず の こう ちく
水 野 香 竹 書

小三 羽子いた

みず の こう ちく
水 野 香 竹 書

注…コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆ 1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1
(68cm×17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

中二・三年

中 一 年

小 六 年

不屈の精神

中二・三

おく むら のぶ ゆき
奥村 暢之 書

希望を持つ

中一

おく むら のぶ ゆき
奥村 暢之 書

夢語る友

小六

おく むら のぶ ゆき
奥村 暢之 書

注：コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆ 1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1
(68cm×17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。